

クラブ紹介 私たちのクラブ自慢を聞いてください!!

高校女子バレーボール部 High School Girls VolleyBall Club



帝国女子時代の92年に全国三冠の偉業を達成、滝井高では94年・07年と2度の全国制覇、21年も春高準優勝など、学園の校技として輝かしい歴史を誇る高校女子バレーボール部。今秋、滝井・国際合同チームとしては最後の出場となる春高バレー全国大会の切符を手に入れました。国際校2年生の三林美湖さんは「小学校の時、全国大会に行けなくて悔しくて、バレーが強い学校に入りたいと思って前身



国際校2年生 三林 美湖さん

の国際大和田中に入学しました。けど自分たちの時代には全国に行けなかったんです。」高校に上がって滝井高の先輩たちと切磋琢磨してようやく掴んだ春高全国大会出場権。「合同チーム最後の年に春高に出場できるのは本当に嬉しいです。1月の全国大会では1戦1戦を大事に戦って、少しでも長くこのチームでバレーができるよう頑張りたいです。そして良い成績を出して、30年近くバレー部の監督をされてきた、滝井の才崎先生を胸上げたいです!!」バレー部の部訓は「創魂 和に通ずる心よ育て」。滝井ラストイヤーという目まぐるしい変化の中で、高校女子バレーボール部は強豪復活に向けて新たな歴史を創りだそうとしています。

インターアクトクラブ Interact Club



インターアクトクラブ 部長 2年生 林 欽暢さん

インターアクトクラブは国際的な組織であるロータリークラブの協力のもと、奉仕活動をする青少年を対象としたクラブ。現在本校では高校1年生18人・2年生7人の計25人が在籍しています。これまで

に古着の回収や文化祭で献血車を呼んで献血を呼びかけたことなど、さまざまな活動をしてきました。部長の林さんは「入学前から国際高にインターアクトクラブがあることは知っていました。だから入学したら絶対に入部しようと思っていたんです。」前身の国際大和田高校から続くインターアクトクラブには多くの卒業生もいて、イベントには卒業生もたくさん参加するのだそう。「もっといろんなボランティアができてと思っています。これからは今までやったことがないようなことにも積極的に挑戦していきたいですね。」



8月1日(火)～3日(木)までインターアクトクラブ研修旅行として福島県宮城県に行ってきました。東日本大震災についての講演や相馬市歴史収蔵館へ行き、プレゼンをしたり、マルセイ果樹園(桃農園)を訪れ、震災から復興してきた農家の取り組みを学びました。

将来は世界に通用する音楽家になりたいと話す林さん。その視線の先はすでに世界を見ているかもしれませんね。

松下校長先生のコラム ビビッとしようぜ!

Hi, Everybody!! Let's be vivid!!

これだ!! って思えるもの、ありますか?

阪神タイガースが38年ぶりの日本一に輝き、大いに盛り上がった2023年でしたが、その38年前、私は高校3年生でした。当時日本シリーズは昼間のデーゲームで行われており、高校の視聴覚教室のテレビを観ながら(先生公認です!!)、みんなでタイガースの応援をしたのがいい思い出になっています。その38年前、自分の中ではそんなに大昔という感じはしないのですが、今では生活に欠かせない携帯電話もインターネットも存在しませんでした。電気自動車(EV)も走っていませんし、私が受験した東京の大学からの合否通知は、合格発表日の夜に電子郵便で送られてきました。(電子郵便って、分かります?)

このように、世の中は激変したわけですが、みなさんがこれから生きていく世の中も同様です。みなさんの38年後も、今からは想像もつかないような世界になっていることでしょう。しかし、どんな時代になろうとも、その時代に一番合った感性やバランス感覚を持っているのは、まさにその時代を生きる若者たち、そう、みなさんたちです。本校のホームページで、私がみなさんに「おすすめ図書」として紹介した小説の主人公、坂本龍馬が残した言葉の一つに、「世の人は我を何とも言わば言え 我なす事は我のみぞ知る」というものがあります。「人がどう思おうとも、自分がやるべきことは自分だけが知っている」という意味ですが、みなさんも自分の心を「ビビッと」揺り動かすもの、自分が「これだ!!」と強烈に思える志や夢を掲げてください。そして、その志や夢に向かって一心に努力することで、自らの人生を彩り豊かな、ビビッド(vivid)なものにしてほしいと思います。

ビビッとしようぜ!!